

宇都宮の香りと
真心をこめて



農家から運び込まれたトマトを、手際よく「雷都物語」としてパッケージングするパッケージセンターのスタッフたち



トマト・梨の統一選果場

第4回

新鮮な農作物を、 安全・安心に生産者から消費者へ

日本一日照量が多い宇都宮の、鬼怒川の水の恵み。そして生産技術の粋と、生産者の愛情を集め、糖度、熟度などをチェックし、厳選した商品です。



うつのみやの
農産品



営農部直販課の佐藤文雄次長(左)、園芸施設課の松本法子さん(中央)、入江将之さん(右)

宇都宮市の東南、まもなく真岡市に入る上籠谷の田園地帯の中にJAうつのみやの「東都選果場」の建物があります。門をくぐると、広い敷地内に事務所や選果場などの建物が並んでいました。営農部直販課の佐藤文雄次長の案内で、パッケージセンターを見学しました。

「平成17年にできた施設で、アスパラの選果場も兼ねています。雷都物語のパッケージも、ここで行われています」と佐藤次長。うかがった10月中旬はトマトやさといもの出荷時期で、センターの一角でスタッフたちが、箱詰めされたトマトを雷都物語用にビニールに詰めている作業を行っていました。手際よく進む作業は、さすが！のひとこと。カメラのフラッシュに照れくさそうに笑いながらも、手元は淀みなく動き続けていました。

季節ごとの主な作物を佐藤次長

スーパーや直売所などで何気なく購入するトマトやイチゴにも「雷都物語」があるのを、ご存知ですか？ 今回は、農家が大切に育て上げた農作物を消費者にお届けする「JAうつのみや(宇都宮農業協同組合)」におじゃましました。

「春は、何といってもトマト。もちろんトマトは通年で出荷していますが、やはり春が最も多いですね。それから2月から5月にかけて、アスパラが多く出荷されます」

近年は手がける農家が増えて来たアスパラは、すっかり人気商品になっているそうです。

「夏は梨、秋はさといも。トマトは秋も多いですね。そして晩秋から春にかけては、何といってもイチゴでしょう」

農家から運び込まれた農作物を、ここ東都選果場で選別・箱詰めして顧客に出荷します。顧客は直売所や店舗で、契約先などに出荷されています。

「もちろん市場への出荷もありますが、近年は個別契約で直接納入することも多いですね。その方が、私どもや農家にとっては収入の安定につながりますし、顧客にとっても安定供給が約束されるので、互いにメリットが大きいのです」

JAうつのみやでは「営農指導(農家の生産指導など)」「販売(農畜産物を集荷し、共同で販売)」「購買(肥料や農薬など営農活動に必要な資材などを共同購入)」などよく知られた事業だけでなく、預金や融資などの信用事業、共済事業、資産管理事業、福祉事業など、農家や農村、農業を守り育てるためのさまざまな事業を行っています。長い歴史と幅広い事業内容から、農家とJAとの間に信頼関係が構築され、また顧客も安心して取引ができるでしょう。

「私どもの主要品目は、一番はやはりイチゴで、年間約27億円(平成26年2月末現在)。次がトマトで約12億4千万円。次が梨(約7億5千万円)、ニラ(約4億2千万円)と続きます。当

面はイチゴで30億円を超えることが目標です」と話す佐藤次長。雷都物語に参加するメリットは、「地産地消に大きな役割を果たしていると思います。イメージアップにも役立ちますし、JAとしては、農家が一生懸命つくったものを、できるだけ広く、多くの方に『おいしい!』と喜んで召し上がっていただきたいと考えています」

おいしくて安全、安心な宇都宮の農産物。これからもどんどん「地産地消」を進めて、食卓に笑顔を届けてください!



宇都宮農業協同組合
(JAうつのみや)
宇都宮東都選果場
所在地/宇都宮市上籠谷町3196
☎028-670-8282
http://www.jau.or.jp